

佐太神社崇敬会だより

かみありのやしろ

神在の社

佐太神社崇敬会
平成30年9月発行
第二号
特集「佐太神社の神楽」



佐太神社崇敬会だより

かみありのやしろ

神在の社

第二号

平成30年9月発行
特集「佐太神社の神楽」

毎年発行編集発行佐太神社崇敬会
島根県松江市鹿島町佐陀宮内七三

写真撮影 加島美知 / デザイン 編集 坂本洋子

佐太神社崇敬会へご入会ください

導きの神佐太大神(猿田毘古大神)をはじめ十二柱の神々、
この御社に集う八百万の神々からの広大無辺なる御神徳を授かりましょう

御由緒

当社は出雲國風土記(天平五年733年)にカンナビヤマの麓に座す佐太大神社、或いは佐太御子社と見え、出雲國二ノ宮、出雲國三太社の一つとして「佐陀大社(さだのおおやしろ)」と称えられた御社です。中世には伊弉冉尊の陵墓である比婆山の神陵を遷し祀つた社と伝え、旧暦十月は母神である伊弉冉尊を偲んで八百万の神々が当社にお集まりになり、この祭りに関わる様々な神事が執り行われることから当社を「神在の社(かみありのやしろ)」とも云い、広く信仰を集めています。また、九月二十四日、二十五日の御座替祭で舞われる佐陀神能は出雲國內をはじめ他の里神事に大きな影響を与えたとされ、國の重要無形文化財に指定、またユネスコ無形文化遺産に登録されています。

入会のご案内

佐太神社崇敬会は平時における佐太神社を奉護して、御神徳を宣揚し、年中数度の古伝の祭事を振興して、神社の隆昌を願い、御本殿三社をはじめ数々の文化財、社宝、大術品等を末永く後世に伝えると共にこれを活用して文化の創造・発展に役立て、大神様の広大無辺なる御神徳のもと、人々の平安と繁栄を願うものであります。佐太大神をはじめ十二柱の神々、この御社に集う八百万の神々からの幸福、ご縁がいただかれますようご入会のご案内を申し上げます。尚、崇敬会の活動に対する寄付金も受付けております。既にご入会の方もご親戚、ご友人など多くの方々とのご縁を結んでいただきたくご紹介いたします。既にご入会の方もご親戚、ご友人など多くの方々とのご縁を結んでいただきたくご紹介いたします。既にご入会の方もご親戚、ご友人など多くの方々とのご縁を結んでいただきたくご紹介いたします。

年会費

- ◆ 準会員 三千元
- ◆ 会員 五千元
- ◆ 正会員 壹万円
- ◆ 法人会員 参万円

待遇

- ◆ 参拝時に御垣根にて拝礼が出来ます
- ◆ 祭事催しのご案内を致します
- ◆ 崇敬者大祭にご招待致します
- ◆ 毎年神札を授与致します
- ◆ 会員章を授与致します

※ご入会方法は佐太神社社務所へお問合せください。ホームページからもお申込頂けます。



佐太神社崇敬会

佐太神社社務所

〒690-0331 島根県松江市鹿島町佐陀宮内 73

TEL・FAX (0852) 82-0668

✉ info@sadajinja.jp

http://sadajinja.jp/

神在の社

佐太神社崇敬会
平成30年9月発行
第二号
特集「佐太神社の神楽」

佐太神社崇敬会だより「神在の社」第二号 目次

特集 「佐太神社の神楽」

- 御挨拶 佐太神社崇敬会 会長 宇藤 志郎
- 御挨拶 佐太神社 宮司 朝山 芳園 「佐太神社の神楽」
 - 真ノ神楽 シンノカグラ
 - 朔日神楽 ツイタチカグラ
- 御座替祭と佐陀神能 佐陀神能保存会 会長 石橋 淳一
- 祭事だより
 - 一月七日 七草祭
 - 二月三日 節分祭
 - 二月十五日 管粥祭
- 五月三日 直会祭
- 六月三十日 水無月大祓
 - 七月十五日 御田植祭
- 平成29年度 佐太神社崇敬会事業報告／一般会計決算報告
- 平成30年度 佐太神社崇敬会一般会計予算／計画 役員名簿
- 【お知らせ】 式年御造営 第二期工事 進捗状況
- 式年御造営 第二期工事に伴う寄付金のお願い
- 【お知らせ】 祭事予定／編集後記



表紙写真
「御座替式」大祓詞三部真読
撮影 加島 美知

御挨拶

佐太神社崇敬会 会長 宇藤 志郎

拝啓

時下ますますご清祥の段 お慶び申し上げます。平素より佐太神社 佐太神社崇敬会の儀につきましては毎々ご崇敬の思召をもって格別のご高配を賜り誠に有難く御礼申し上げます。さて、平成の大修復 第一期工事に引き続き第二期工事として現在、母儀人基社・田中神社等の整備事業を進めております。引き続きユネスコ無形文化遺産リストに登録された「佐陀神能」を舞う場があります「舞殿」をはじめ付属諸施設・境内整備工事も鋭意進めてまいりますので御支援・御協力を賜りますようお願い申し上げます。

敬具



佐太神社の神楽

佐太神社 宮司 朝山 芳園



平成二十八年目出度く御遷座祭を執行し得ましたことは、皆様の深厚なる御信仰によることと篤く感謝申し上げます。然るところ引き続き第二期工事として撰末社等の整備工事を執り行っております。皆様方の御懇情を賜り、御神徳に報いることができますよう宜しくお願い致します。さて、佐太神社には古くからの御祭事が行われて居り、それぞれの祭り事に巫女舞、獅子舞等様々な神楽を伝承しておりますのでご紹介させていただきます。

一 真ノ神楽 シンノカグラ

巫女の舞。古伝の主な祭典の際には神前で奉奏する慣わしです。地方(じかた)は琴・締小太鼓、笛(七孔)、銅拍子を用いて当地に伝わる「サンガク」「シンノカグラ」を奏し、巫女は天冠・舞衣・赤千早・緋袴を着け、右手に神楽鈴、左手に櫛を持ちます。元は当社神楽司で幣主祝(へいぬしはふり)の宮川家、同じく注連祝(しめはふり)の幡垣家の両上官(じょうがん)の家から秋鹿方一巫女、島根方一巫女として各一人の巫女を出し、明治維新後も三十八・九年頃までは両家の妻女が奉仕してきたといえます。それも老齢となり後継者がなく中絶するに至りますが、大正八年に佐太神社古傳神事保存協会が出来てから、神能の「日本武」「磐戸」「三韓」の内にこの真神楽が入っていることからこれを継承することができたのです。



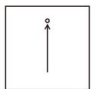
巫女舞「真ノ神楽」

の家から秋鹿方一巫女、島根方一巫女として各一人の巫女を出し、明治維新後も三十八・九年頃までは両家の妻女が奉仕してきたといえます。それも老齢となり後継者がなく中絶するに至りますが、大正八年に佐太神社古傳神事保存協会が出来てから、神能の「日本武」「磐戸」「三韓」の内にこの真神楽が入っていることからこれを継承することができたのです。

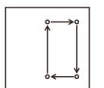
二 朔日神楽 ツイタチカグラ

これも巫女の舞で、一月一日を始め、年中十二回の朔日の月次祭に奉奏します。地方は琴・締小太鼓・笛(七孔)を用い「サンガク」「ツイタチカグラ(四段)」を奏します。巫女は天冠・千早・緋袴をつけます。右手に神楽鈴、左手に櫛を持ち、神前に進んで二拝の後、地方が「サンガク」を奏すると鈴を鳴らし両手を大きく輪を描くようにして顔前で合わせて一礼をします。…図①次に地方が琴を打つと共に順廻りに歩き、右手の鈴を鳴らしながら進み、角へ行つたときまた琴を打ち、向きを変えて鈴を鳴らして進む、角に至って琴を打ち、向きを変え、鈴を鳴らしながら元の正面にかえって拝礼。…図②次に逆廻りに同じように舞います。図③三回目は一回目と同様に舞い、四回目は二回目と同様に舞った後、前記の真ノ神楽を舞うことになっています。

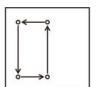
(次号に続く)



図①



図②



図③

御座替祭



御座替祭と佐陀神能

佐陀神能保存会 会長 石橋 淳一

御座替祭は御本殿三社をはじめ摂末社すべての御神座の莫産を取替えるお祭りです。御神座の莫産を新しく取替えることで 神々の霊威が常に新しく続くと思われ、当社のある祭りの中でも最も重儀とされ年毎の遷座祭ともいえる祭です。

この御座替の蘭筵（いむしろ）は「延喜式（えんぎしき）」に「出雲筵」と見えるもので、旧佐陀荘の産物として都に送られていました。また、「枕草子」に「いやしげなるもの…まことの出雲筵の畳」と載っているのもこれをさすと思われま。

江戸時代には佐太表（さだおもて）または秋鹿表（あいかおもて）として盛んに生産され、神社にも御座田があり、御座替の蘭草（いぐさ）を栽培していました。

「御座替」の名は当社においては「永正九年（1512年）五月八日佐田大社彌宜宮廻佐與之助之写畢」と記す文章に「七十余度之祭之名ヲ知事」とあり「八月廿四日御座之祭但鳥根秋鹿郡之社家集ル」「八月廿五日神法楽祭但楯縫伊宇郡東鳥根集神事」と有るのが初見で、江戸時代を通じて佐陀触下（ふれした）、いわゆる当社の支配下にあった秋鹿（あいか）・鳥根（しまね）・楯縫（たてぬい）・意宇（おう）西半郡三郡半の神職、巫女が参集し、奉仕する慣わしとなっていました。

現在の祭は陽暦九月に行われ、宮司は十九日から当社の旧神領であった伊弉諾濱（いざなぎのはま 現：松江市鹿島町古浦）にて身を清めた後、齋館に参籠し祭りに備えます。その間の食事は一日二食で早朝、祝部（はふりべ）による鑽火（きりび）で起こした忌火（いみび）で調理されたものを食し、外界との接触を一切断つ厳重な潔斎（けっさい）が行われます。また直会殿、舞殿、社務所の入り口には宮司が潔斎時に海から持ち帰った海藻（ホンダワラ）と竹筒に入れられた海水が備え付けられ、これを用い、祓を行います。当社では汐草祓（しおくさはらえ）と云います。

祭事撮影 平成二十九年九月二十四日



祭の当日二十四日祭りの準備が整うと 午後八時より神事が始まります。舞殿ではこれから神事に入る旨を神々に知らせる意味を持つ「入申（いりもうす）」が奏され 七座神事が執り行われます。入申は琴・締小太鼓・笛（龍笛または能管）・銅拍子で楽を奏し琴取は神歌をうたいます。

同刻摂末社より御座替神事を始め、七座神事で清められた莫産を用いて御本殿以下すべての御神座の莫産が取り替えられます。

七座神事は「剣舞」「散供」「清目」「御座」「勸請」「八乙女」「手草」の七段があり「御座」の舞を中心に構成されています。

装束は 舞方は烏帽子 白衣・白袴・布衣・上千早 地方は烏帽子 白衣 白袴となっています。舞は直面（ひためん：面をつけない）で、手に採り物を持って舞います。採り物には莫産・榊・御幣・剣・鈴・中啓があります。



「剣舞 けんまい」 邪悪なものを祓い清める舞

前段

四人で舞う 鈴と小幣を持つ
奏楽 廻り神楽～入申～八調子



後段

四人で舞う 剣を持つ
奏楽 八調子～早神楽～廻り神楽を奏す



「散供 さんく」 齋場を清める舞

一人舞 榊と中啓を持つ
奏楽 廻り神楽～八調子～廻り神楽



「清目 きよめ」 齋場を清める舞

一人舞 榊と中啓を持つ
奏楽 前段 廻り神楽～しゃぎり
奏楽 後段 八調子～廻り神楽



「御座 ござ」 莫産を清める舞

一人舞 莫産と中啓を持つ
奏楽 廻り神楽～八調子～廻り神楽



「勸請 かんじょう」 神降ろしの舞

一人舞 大幣と中啓を持つ
奏楽 廻り神楽～さがりは（前後に散楽）
～廻り神楽



「八乙女 やおどめ」 神なごめの舞

巫女舞 鈴と榊を持つ
奏楽 入申～しゃぎり～廻り神楽



「手草 たくさ」 神なごめの舞

二人舞 鈴と榊を持つ
奏楽 入申～八調子～廻り神楽

「七座」の語は文献の上では天文三年（1534年）の「大野高宮社記（おおのたかのみやしやく）」に「八月廿四、五日御座替御祭礼為式日、令執行七座神事」とあり、古くからこの地方での祭りとして御座替に七座神事が行われていたことが窺えます。

享保二年（1717年）に黒沢長尚の記した「雲陽誌（うんようし）」には三十九社の祭事に「七座神事あり」と記されており、この七座神事は出雲のほぼ全域に於いて祭式とされていたようです。しかし、明治の神社制度改革によって祭式次第が改められ、今日では七座を祭式とする形はなくなってしまいました。しかしながら当社では今日に至るまで変わらず古式を受け伝えております。

祭事撮影 平成二十九年九月二十四日



御座替祭

「御座替式」大祓詞三部真読



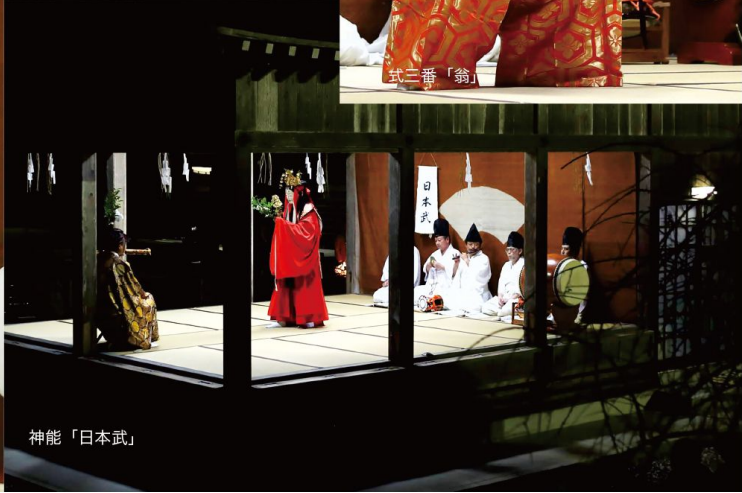
神能「大社」



式三番「翁」



式三番「三番叟」



神能「日本武」



直会殿にて本殿御座替式が始まる前に修祓を行う

御座替祭 佐陀神能

摂末社の御座替が終わると本殿三社に移り南殿、北殿、正中殿の順で御座替を行います。御座替の前に宮司以下祭員一同、本殿の前で「御座替式」大祓詞三部真読を奏上します。その後、御扉を開き、内陣に進み、御神座を舞い清めた新しい蔭簾に取り替えます。そして古伝の神饌、御膳幣を献じ、御扉を閉じ、正中殿階段下で古例の四方拜を行った後、宮司以下祭員一同は直会殿に参集し巫女舞「真ノ神楽(しんのかぐら)」が舞われ、御神酒とオケヒョウと呼ぶ御供を頂き、祭を終えます。



巫女舞「真ノ神楽」

その後、宮司宅で直会を行います。その前に三方に燈籠を乗せたものを祭員一同順に拝する儀式があります。これは社人が祿を受けていた時代の名残ではないかと思われます。これを以て宮司は五日にわたる齋戒を解きます。



宮司自宅にて三方に燈籠を乗せたものを祭員一同順に拝する

翌二十五日には無事御座替式を執り行ったことを祝し御法楽として「式三番」神能が執り行われます。それについては次回にご説明させていただきます。

祭事撮影 平成二十九年九月二十四日
二十五日



祭事だより

年間を通して佐太神社では様々な古傳の祭りが執り行われます。その一部をご紹介します。

二月三日 節分祭



二月三日 節分祭を斎行しました。氏子崇敬者の皆様の家内安全・無病息災を祈念いたしました。夕刻には節分祭かたしろのお焚き上げを行いました。当日は氏子有志の皆さんにより鯨汁の振る舞いがあり多くのご参拝を頂きました。御祈願をお申込みされた方には福豆を授与致しました。



一月七日 七草祭



一月七日 七草祭を斎行しました。氏子崇敬者の皆様の家内安全・無病息災を祈念いたしました。古傳により七草粥を炊いていただきます。

二月十五日 管粥祭



二月十五日 古伝祭 管粥祭を斎行致しました。忌火で小豆粥を炊きその中に竹筒を入れ、詰まり具合で農作物の吉凶を占うものです。「早稲七歩五厘 中稲八歩 遅稲七歩」例年になく歩合が劣る結果となりました。近郷の農事組合法人、篤農家の参拝を頂き五穀豊穡をお祈り申し上げます。



六月三十日 水無月大祓



六月三十日 嘉例により水無月大祓を齎行いたしました。この祭は夏越大祓とも云い、半年の間に知らず知らずのうちに身に付いた罪穢れを祓い、清らかな身に立ち返らんとする神事で、日本古来より受け継がれた伝統行事です。また、この祭りには茅ノ輪をくぐり、厄災をはらう風習もございます。『備後国風土記』の逸文にある「蘇民将来」神話では茅ノ輪を腰につけて災厄から免れたとされ、茅の旺盛な生命力が神秘的な除災の力を有すると考えられてきました。



七月十五日 御田植祭



七月十五日 古伝祭 御田植祭を齎行いたしました。来年の豊作を祈る予祝の祭りです。氏子や保護者が見守る中、佐陀宮内地区小学生の児童がご奉仕いたしました。松葉を苗に見立てて所作するのが特徴です。



庭上神事「獅子舞」

国庭神事「神子ノ舞」

嘉例により古伝祭直会祭を齎行いたしました。この祭りに合わせて、午前十時より佐太神社崇敬会主催による崇敬者大祭を御仮殿にて行いました。佐太神社の発展と共に広大無辺なる御神恩を報謝し、国家の弥栄と氏子、崇敬者各位の家運隆昌・無病息災が祈念され、舞殿では出雲地方に古来より伝わる祈禱舞「悪切」を奉納しました。午後二時からは直会祭が行われ庭上では古い武家の作法を伝えるという杯式や獅子舞、舞殿では国庁神事（地固舞、神子舞、猿田三番舞）が佐太神社古伝新保存協会の方々の御奉仕により滞りなく執り行われました。前日の激しい風雨一転 晴天に生まれ、多くの参拝者の方が古式ゆかしい神事を拝観されました。今年は佐太神社門前市も併せて開催され、参道では地元の特産物販売、特設ステージイベントとしてHIPHOP ダンス FLAVOR さんのダンス、潜戸太鼓さんの和太鼓演奏、開星高校コーラス部の演奏などが行われ、賑やかなお祭りとなりました。

五月三日 直会祭



「杯式」



悪切祈禱



門前市 潜戸太鼓

式年御造営 第二期工事 進捗状況

現在までの式年御造営 第二期工事の進捗状況をお伝え致します。引き続きご支援を賜ります様よろしくお願い致します。尚、工事の為ためご参拝の皆様にはご不便をおかけ致しますが何卒ご容赦ください。

事業名 佐太神社付帯設備工事 その1
 施工 株式会社 佐藤組
 工期 平成30年3月14日～同年9月30日
 工事内容 母儀人基社 基壇・参道整備工事 田中神社 境内整備工事



母儀人基社基壇整備 樹木伐採状況



母儀人基社基壇整備 基礎工事状況



母儀人基社基壇整備 基壇石掘付状況



母儀人基社基壇整備 完成



田中神社 南側擁壁改修工事状況



田中神社 南側擁壁改修 完成

事業名 佐太神社付帯設備工事 その2
 施工 松江土建 株式会社
 工期 平成30年3月14日～同年5月30日
 工事内容 宇多貴社跡 縦馬場南側付近 舗装工事



縦馬場南側付近 表土剥き取り状況



宇多貴社跡 路盤工敷均し状況



宇多貴社跡 路盤工転圧状況



縦馬場南側 表層工敷均し状況



燈籠付近 敷均し状況



完成

事業名 佐太神社付帯設備工事 田中神社 鳥居建立工事
 施工 須田石材店
 工期 平成30年3月14日～同年8月10日
 工事内容 田中神社鳥居建立工事



田中神社 鳥居建立状況



田中神社 鳥居建立 完成



式年御造営 第二期工事

式年御造営 第二期工事 計画

- 佐太神社 舞殿修復工事
- 母儀人基社 基壇・参道整備工事
- 田中神社 境内整備工事
- 直会殿 修復工事
- 社務所 修復工事他

第二期工事に伴う寄付金のお願い

当社は出雲国二ノ宮、また出雲国三大社の内の一つとして「佐陀大社」として称えられ、神々の国出雲にあっても、とりわけ古い歴史と数々の特筆すべき由緒を持つ御社であります。特に壮大な大社造りの社殿が三殿並立する御本殿周辺の深奥なたたずまいは、古代出雲の有り様を人々に印象付けるものでございます。

当社は国の重要文化財に指定されている御本殿三社をはじめ数々の社宝、またユネスコ無形文化遺産に登録されている「佐陀神能」貴重な有形無形の文化財、先人たちのたゆまない努力により守り伝えられてきた祭祀が数多く残されています。これらは出雲の風土のなかでながい年月を経て育まれてきたものであり、現在を生きるわたしたちは、この貴重な祭祀や文化財を守り後世に伝えていかなければなりません。

この度の経年による社殿・神域の荒廃した部分を修復し以て愈々御神徳の宣揚に奉仕すべく誠意準備を進め御造営奉賛会を発足し、氏子をはじめ崇敬者の皆様方の御支援、御高庇を賜り「平成の大修復事業」として御本殿三社をはじめ諸施設の修復を行い、平成二十八年九月二十三日に無事御本殿遷座祭を斎行申し上げました。

ひとえに皆様方の深甚なる御信仰の表れと厚く感謝申し上げます。引き続き第二期工事として「佐陀神能」を舞う舞殿の他、上記の通り計画しております。誠に恐縮に存じますが、皆様方の御懇情を賜り、御神徳に報いることができますよう宜しくお願い致します。

佐太神社御造営奉賛会 会長 櫻井 誠己
佐太神社 宮司 朝山 芳園

式年御造営 第二期工事 御寄付の受付について



寄付金は一口1000円より承ります。
5,000円以上御奉納いただいた方にはお名前を芳名版に記し顕彰させていただきます。
10,000円以上御奉納の方は本殿御垣内にて正式参拝を行います。
200,000円以上御奉納の方は感謝状を贈呈いたします。
佐太神社社務所へご持参いただくか現金書留等適当な方法でお送りください。お振込の場合は右記の口座にご入金ください。

※当社ホームページでも受付しています

ゆうちょ銀行 一三九店 当座 0050667
口座名義：佐太神社御造営奉賛会
(サダジンジャゴゾウエイホウサンカイ)

祭事案内

嘉例により下記の通り祭典を執り行いますので御参詣くださいますようお願い申し上げます

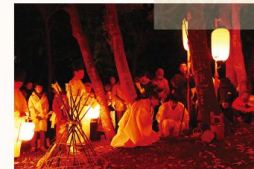
御座替祭 九月二十四日、二十五日



御座替祭	九月二十四日	午後八時より
例祭	九月二十五日	午後二時より
式三番・神能	同	午後七時より

御本殿以下摂末社の御神座の蓑簾を敷き替え翌日、午後例祭を行った後滞りなく御座替が行われたことを祝し夜に式三番 神能を奉納いたします。

神在祭 十一月二十日～二十五日



神迎え神事	十一月二十日	午後八時より九時半頃まで
神等去出神事	十一月二十五日	午後八時より十一時頃まで
止神送神事	十一月三十日	

旧暦十月八百万の神々が出雲国にお集まりになるので神無月と申しますが、ここ出雲では神在月と申します。出雲地方の数社で神在祭がおこなわれていますが、当社の祭りは文献上もっとも古くからおこなわれていたことが伺え祭の形態も古い形を踏襲しており民俗学、神道学等から注目されています。

編集後記

大阪北部地震に続き西日本各地で豪雨による災害が発生しました。

お亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りすると共に被害にあわれた方々に心よりお見舞い申し上げます。

さて来年は天皇陛下のご退位と皇太子殿下が新天皇にご即位される「御代替わり」です。一連の行事は、来年四月三十日に「退位礼正殿の儀」が国事行為として行われ、翌五月一日に新天皇陛下が皇位の象徴である三種の神器の剣や勾玉(まがたま)を引き継がれる「剣璽(けんじ)等承継の儀」が行われます。新天皇陛下がご即位を国内外に宣言される「即位礼正殿の儀」は十月二十二日、国家国民の安寧や五穀豊穡を祈られる「大嘗祭」の中心儀式「大嘗宮の儀」は十一月十四～十五日に実施することです。

当社に於きましても御奉祝行事を計画し皇室の弥栄と国家・国民の安泰と益々の発展をお祈り申し上げたいと存じます。

末筆となりますが崇敬会だよりの発刊にあたり写真のご提供を頂いた加鳥様、編集作業にご協力いただいた坂本様に篤く御礼を申し上げます。